

平成26年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	宇都宮大学
研究開始年度	平成25年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名
国	特別支援学校	知的障害	うつのみやだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

### 2 研究テーマ

子ども<sup>(※)</sup>一人一人が輝く学校作り～本人・社会のニーズに応じたキャリア教育と教育環境～

(※)本校独自の表記

### 3 研究の概要

○キャリア教育の推進による教育課程の改善に向けて

※児童生徒が、学校での学びを今も将来も輝く力にし、地域で共に豊かに生きるために

- ①本校の児童生徒の実態及び社会、周辺地域のニーズの分析から現状と課題の整理
  - ・本校の児童生徒の実態及び本校の強みと課題の分析、把握
  - ・関係諸機関の調査や意見の分析による社会及び地域のニーズの把握
- ②小学部からの将来を見据えた教育内容や支援の検討、指導内容の整理、設定
  - ・福祉事業所職員、一般企業関係者、就労関係機関職員を招いての座談会の実施による「土台となる力（基本的な生活習慣や地域で生活するための力等）の段階表」作成
  - ・将来の地域生活（家庭生活や就労生活も含む）を考えたつながりある学習内容の検討及び学習内容表、年間指導計画の見直し、学習プログラムの作成
- ③外部人材参画による指導内容・指導方法の改善
  - ・大学職員、作業療法士、就労関係機関職員を招いての研修や事例検討会、授業研究会、公開研究会の実施
  - ・地域資源や専門家講師の活用による社会や地域のニーズを反映した指導内容や指導方法の改善
- ④キャリア発達を促すための教育課程の編成
  - ・教育課程検討委員会との連携による教育課程編成の基本方針確認、改善
  - ・教育課程検討委員会との連携による教育課程評価・改善の流れ検討
- ⑤先進校等視察
  - ・本校と同時期に支援領域<sup>注</sup>の編成を行った学校の現在の状況調査
  - ・特色ある教育課程の編成を行っている学校に関する情報収集

## 4 研究の成果

### ①について

- ・分析により、本校のキャリア教育で育てたい三つの力をまとめ、学校教育活動全体を通じてライフキャリアの視点を大切にするとする共通理解を図ることができた。

### ②について

- ・学習内容表や年間指導計画の見直し、「土台となる力の段階表」や「職業的自立に向けた学習プログラム」を作成することで、12年間を見据えた系統的な指導・支援の一助とすることができた。
- ・小学部において「自分の立場や役割の理解」を促し、「はたらく」ことを意識した学習活動の設定を行うことができた。

### ③について

- ・小学部において日常生活動作の育成に着目した「うごき」の授業改善ができた。
- ・中学部において専門家講師を招致しての期間農園芸作業の導入や「協力・生徒同士の関わり」に着目した「作業」の授業改善ができた。
- ・高等部において問題解決能力の育成に着目したサービス業関係の作業班の新設や、専門家講師や地域資源を活用した授業改善ができた。
- ・就労場面から中学部高等部6年間のつながりを考えた目標や内容の確認を行い、中学部高等部合同農園芸作業を実施することができた。

### ④について

- ・小学部において学部目標に「社会生活」の視点の盛り込みと位置付けを行った。
- ・中学部において高等部と合同作業が実施しやすいよう「作業」時間の配置を工夫した。
- ・高等部においてライフスキルの学習の充実を図るため「生活学習」を1コマ増やした。

### ⑤について

- ・様々な学校を視察することで、授業改善が進んだ。

## 5 課題と今後の方策

今回の研究では、キャリア発達を促す視点で、まず「働く（はたらく）」ことに着目した教育活動から見直しを図ってきた。そのため、「暮らすこと」、「楽しむこと」の視点から考えた系統性や一貫性の改善に課題が残った。今後、これらの視点から教育活動の見直しを図っていく。また、教員が「今」指導・支援していることが、児童生徒の豊かな社会生活を送ることができる力を形作るという共通理解を引き継ぎ、様々な教育活動の意味を考え、つなげながら取り組んでいく。

教育内容について、現代社会は変化が激しく価値観の多様化や制度の流動化が著しい。そのため豊かな社会生活を送るための実生活・実社会で必要とされる力について、新たな視点やその力を育成する学習活動の設定が必要であった。今後、これらを更に効率よく行うため、取組を評価し、改善を行ったり、積極的に外部から意見を取り入れたりするための仕組みを整え、学校の組織力の向上を図っていく。また、豊かな社会生活を送るための実生活・実社会で必要とされる力については将来の生活への視点だけでなく、今を充実する視点も忘れないようにする。さらに、自分から行動しようとする自主性や物事に挑戦しようとする積極性は、児童生徒の内側から湧き出る意欲や自信を育てることで育まれていくため、振り返りの工夫や評価の工夫をより一層進めていく。

### 注

支援領域とは、教育内容の新たな分類として開発したものである。

本校では、この支援領域を「発達・学習支援領域（まなぶ）」、「生活支援領域（くらす）」、「就労支援領域（はたらく）」の三つに区分し、3支援領域と称している。「発達・学習支援領域（まなぶ）」とは、個々の特性に応じた支援であり、生活の基礎となる知識・技能・態度への支援。「生活支援領域（くらす）」は、家庭や地域での生活力を養う支援であり、生活設計への支援。「就労支援（はたらく）」は、働く力を養う支援であり、進路選択・決定への支援である。